

8060

二

次官

大臣

ya

朝鮮露第 二二 號

陸軍省 第八〇 號

三月二十日

訓示ノ件報告

大正八年二月十七日 朝鮮憲兵隊司令官兒島惣次郎

陸軍大臣田中義一殿

別紙ノ通訓示致候ニ付及報告候也

朝鮮憲兵隊司令官兒島惣次郎
大正八年二月十七日
陸軍大臣田中義一殿
訓示ノ件報告
別紙ノ通訓示致候ニ付及報告候也

三月五日

陸軍省 第八〇 號

寫

秋

件名
朝鮮總督府警務總監部内訓令

朝鮮總督府警務總監部内訓令第二十五號

憲兵隊長
警務部長

曩ニ露國ハ獨逸ノ坎窞ニ陥リ「ロマノフ」王
朝ハ不幸一旦ニ倒レテ倒レテ國情ハ忽チ無政
府共產主義ニ變シ今尚混亂ノ状態ヲ
脱スル能ハス然ルニ露國ヲ謀テ東方ノ憂
ヲ除キ必勝ヲ西歐ニ期シタル彼獨逸亦俄
然革命ノ勃興ニ遭遇シ獨帝ノ退位ヲ見

終ニ聯邦ノ分裂ヲ來タシ今ヤ復起ツ能ハ
 カルニ至レリ畢竟露獨ノ禍根ハ全ク其軌
 ヲ一ニスルモノニシテ民心激發ノ趨向ハ實ニ人
 爲ノ支持スル能ハサル所以ヲ立證シテ餘リ
 アリ豈深ク察セサルヘケシヤ
 露獨兩帝國ノ倒潰スルヤ革命ノ新思想
 ハ隨處ニ高唱セラレ民族自決ノ聲ハ弱國
 及隸屬地ノ間ヲ風靡シ自治獨立ノ氣運
 ハ滔々トシテ息マズ今ヤ全世界ヲ通シテ一
 大新思潮ヲ生スルニ至レリ

翻テ我朝鮮ノ現状ヲ察スルニ併合以來茲ニ十
 星霜新政ノ惠澤ハ都鄙ニ普ク四民太平
 ヲ謳歌シ更ニ顧念スル所ナキニ似タリト雖我
 ノ所謂仁政ナルモノハ未タ必スレモ悉ク彼ノ
 謳歌スル所ニアラズニテ常ニ不平不満ノ伏
 在スルモノアルヲ思ハカラス就中海外流
 寓者ニ至リテハ常ニ激烈ナル報日思想ヲ
 抱キ同志ヲ糾合シテ機會ノ到來ヲ待ツヤ
 久シ其ノ獨逸勢力ノ東漸ヲ見ルヤ在露
 不逞ノ徒ハ百方奔走結託相倚リ以テ其ノ

多年ノ鬱積ヲ銷セムトシ一蹶振ハス再轉シ
 テ在米ノ同志ト呼應シ弱國ノ獨立民族ノ
 自決ヲ疾呼シテ之ヲ列國ノ同情ニ訴ヘ其
 ノ宥志ヲ達成セムトス殊ニ内地留學生ノ如
 キハ目下殆ント執狂ノ態ニアリ是等在外ノ
 徒ハ巧ニ鮮地ト氣脈ヲ通シテ勢力ノ向上
 發展ヲ企圖スルモノ亦尠シトセス加フルニ
 李太王殿下卒然薨去セララルヤ流言蜚語
 ハ頗ル鮮人ノ耳目ヲ聳動セリ故ニ現時ノ實
 相ハ決シテ其ノ外觀ノ平靜ニ安スヘカラサル

モノマリ特ニ露國ノ過激派ハ其ノ主義ヲ以テ
 支那及朝鮮ニ傳播セムコトヲ企テ畫策既
 ニ成リ密ニ人ヲ派シテ其ノ其鳴ヲ奨誘スト
 云フ彼ヲ顧ミ是ヲ慮レハ治安上轉寒心ニ
 堪ヘサルモノ多シ想フニ從來日ヲ唱道守シ
 タル古老輩ハ年所ト共ニ漸次凋落スヘキハ
 自然ノ理數ニシテ敢テ憂慮ニ値セサルカ如
 クナルモ特ニ深甚ノ注意ヲ要スヘキモノハ革
 命新思想ノ浸入ト民族自決主義ノ擴
 大是レナリ媯和會議進捗ニ伴ヒ或ハ波蘭

猶太又ハ「チエクワスラバツク」等ノ獨立自治ノ
 復活ヲ視ルノ日アルニ於テハ一般人心ニ不測ノ
 變化ヲ來シ彼ノ在外者ノ運動ト相俟テ列
 國ノ同情ヲ喚起スルノ虞アルノミナラス氣運
 ニ乘シタル思想ノ傳播ハ最モ敏速ニ民心ヲ
 激發シ統治上重大ナル難局ヲ醸成スルニ
 至ルハキハ蓋シ豫想ニ難カラサル所タリ
 叙上ノ情勢ニ鑑ミ職ニ半島ノ治安ニ任スル
 者ハ此際深ク考慮スル所ナカルヘカラス抑
 吾人ノ職務ハ頗ル廣汎ニシテ複雑ナリ

而シテ彼此互ニ輕重スル所ナク限リアルノ實力
 ヲ以テ限ナキノ要求ニ應セムトス其ノ至難タル
 ヤ識ルヘキノミ然レトモ朝鮮ノ現状特ニ將來
 ニ對シテハ徒ラニ其ノ至難ノ故ヲ以テ治安ノ
 維持上一點ノ欽陥アルヲ許サズ宜シク緩急
 機ニ應シ免ク其ノ大綱ヲ把持シ處置其ノ
 肯綮ニ中ルヲ要ス苟モ末節ニ拘泥シテ
 大局ヲ謬ルカ如キハ最モ戒メサルヘカテス右
 官ハ常ニ此ノ意ヲ體シ時局ニ處スルノ途
 ヲ研メ治安保持ノ實ヲ擧グルニ於テ專心

遺憾ナキヲ期スヘシ
右訓示ス

大正八年二月十五日

朝鮮憲兵隊司令官
朝鮮總督府警務總長
兒島惣次郎